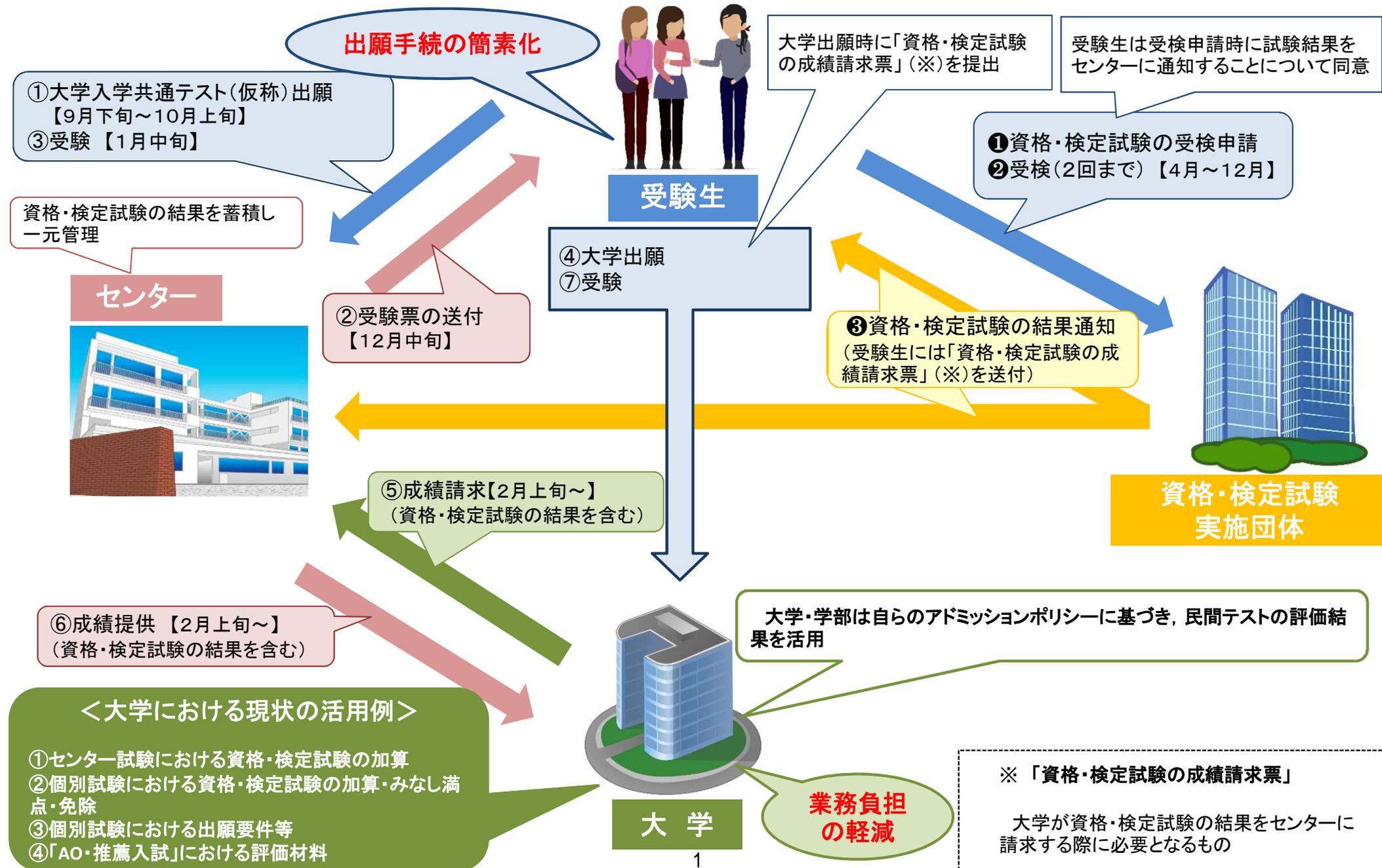


「英語4技能大学入試成績提供システム」の活用イメージ

すでに多くの高校生が既存の民間資格・検定試験を受検している実態を踏まえ、各大学の判断による民間資格・検定試験活用を拡大・促進する成績提供システムを構築

➔ 「資格・検定試験」の結果をセンターに一元的に集約し大学に提供



「英語4技能大学入試成績提供システム」の導入効果

基本的考え方

すでに多くの高校生が既存の民間資格・検定試験を受検している実態を踏まえ、各大学の判断による民間資格・検定試験活用を拡大・促進する成績提供システムを構築

ポイント

大学入試への民間資格・検定試験を活用した英語4技能評価を飛躍的に拡大・促進するため、大学入試センターで受検生の同意の下、資格・検定試験の成績を一元的に集約し、各大学の求めに応じ提供するシステムを構築

→ **大学・学部は自らのアドミッションポリシーに基づき、民間テストの評価結果を自由に活用**

例えば、①新テストにおける資格・検定試験の加算

②個別試験における資格・検定試験の加算・みなし満点・免除

③個別試験における出願要件等

④「AO・推薦入試」における評価材料

→ **システムに参加を求める民間の英語資格・検定試験実施団体**

・試験内容・実施体制及びセキュリティ等が入学者選抜に活用する上で必要な水準及び要件を満たしている団体を大学入試センターが認定

導入の効果

受検生

○出願手続きの大幅な簡素化

→ これまでは、各受検生が成績証明を各大学へ送付する必要があった。

→ 導入後は、大学入試センターが一括して各大学へ成績提供。

大学

○業務負担の軽減

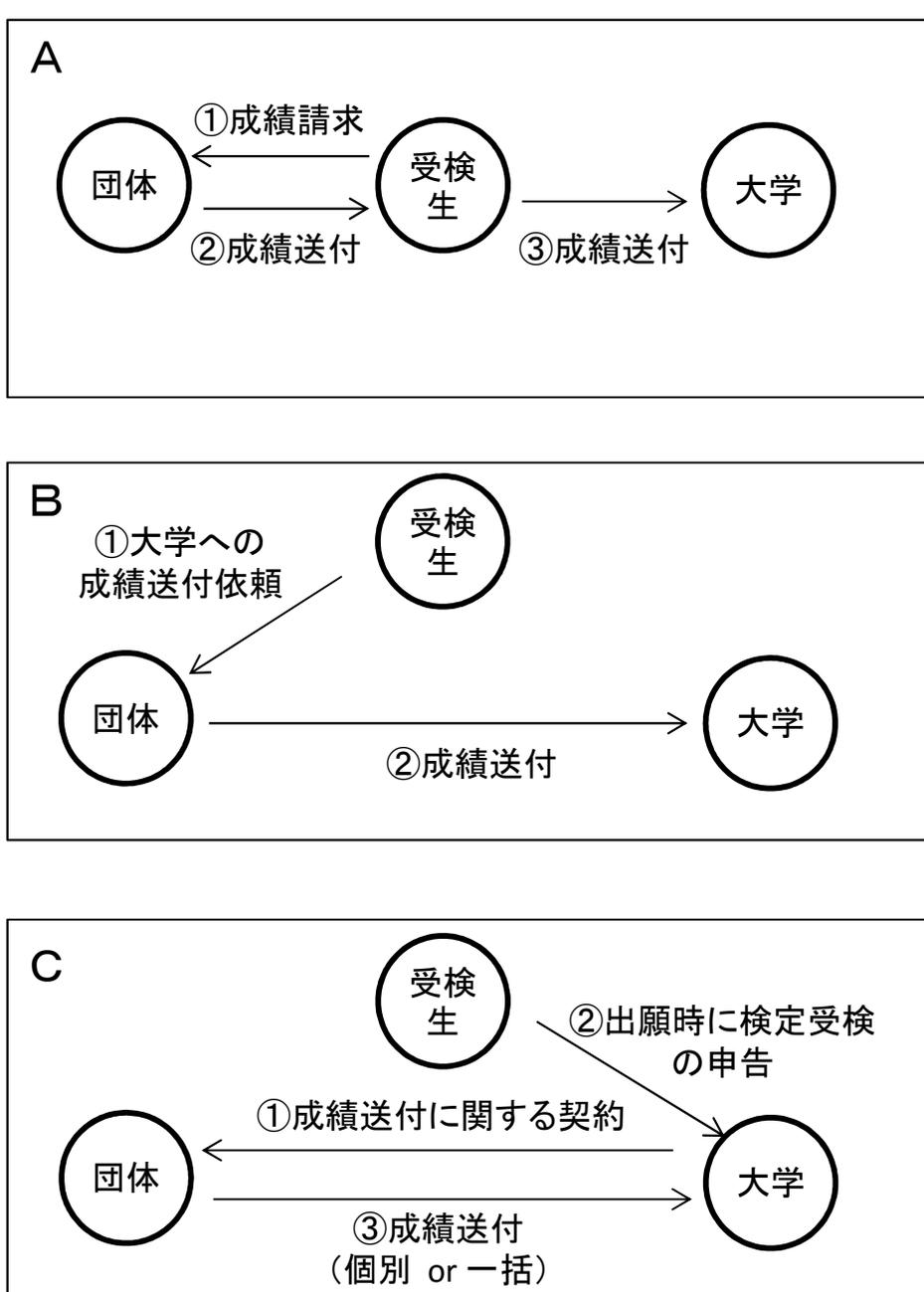
→ 大学入試センターの成績提供システムに参加することによって、成績証明のチェックや督促、また成績入力作業など、出願受付・合否判定業務の円滑化・効率化。

社会

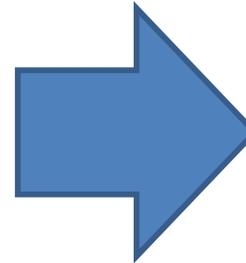
○システムの導入により、各大学における資格・検定試験の活用を飛躍的に促進。
○受検者の負担や高校教育への影響を考慮して、受検回数制限への対応が可能に。
○試験データ（ビッグデータ）の蓄積によって、将来的には国の施策の立案・改善や高校における授業改善。

資格・検定試験の成績提供イメージ

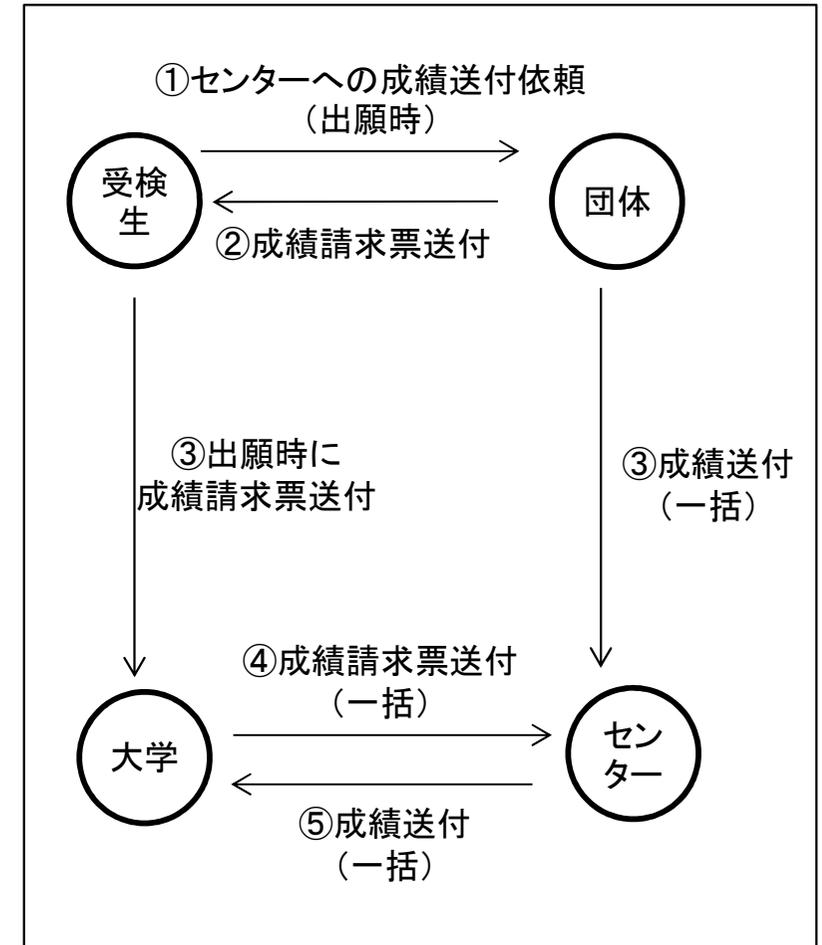
○成績提供の現状



個別対応



○センターによる一元管理



平成29年度センター試験「本試験英語(筆記)」の受験者の出願類型及び平均点

	人数	全受験者に占める割合
本試験全受験者	547,391人	100%
本試験英語(筆記)	540,029人	98.7%
本試験リスニング	532,627人	97.3%

